

# 姫路赤十字病院だより



## contents

- 麻酔科ペインクリニック部長 新任挨拶
- 緩和ケア内科スタート
- 地域医療連携交流会を開催しました
- FAX 紹介の受付時間が変わります
- 診療科の紹介 リハビリテーション科・皮膚科
- 専門・認定看護師紹介
- 地域医療従事者スキルアップ研修会開催
- 研修会開催予定一覧
- 採用・退職

Vol. **6**  
2014.10

お知らせ

## 麻酔科ペインクリニック部長 新任挨拶

7月に岡山大学病院から赴任いたしました、石川 慎一と申します。平成4年に岡山大学を卒業後、岡山大学麻酔科蘇生科に入局し、香川県立中央病院、岡山赤十字病院、福山医療センター、福山光南病院などで研鑽を積んで参りました。麻酔、救急、集中治療の研修後に平成6年にペインクリニック研修を開始し、平成9年からほぼ専従で痛みの診療を行ってきました。慢性痛や緩和医療に対する神経ブロックを用いたインターベンション治療を得意としています。また経皮的椎間板髄核摘出術、脊髄刺激電極治療なども行っています。疾患別では脊椎関連疾患による頭頸部痛や腰下肢痛が得意ですが、頭痛や末梢血管障害による下肢痛など“頭のとっぺんから足の先”まで幅広く診療いたします。今後は硬膜外内視鏡や硬膜外自家血注入治療など先進医療も導入する予定です。

現在は、私を含めた三人体制で外来診療を行っておりますが、院内および地域医療のみならずと遅滞なく連携して診療を行いたいと思っております。また臨床研修病院としてペインクリニックを今後担う医師の育成も行います。

地域の先生方のご要望とご期待に応えられるよう努力していく所存です。今後ともよろしくご指導のほどお願い申し上げます。

(ペインクリニック部長 石川 慎一)



### 【資格】

日本麻酔科学会麻酔指導医・専門医、  
日本ペインクリニック学会専門医

### 【専門分野】

脊椎関連疾患による痛み、超音波ガイド下神経ブロック、経皮的椎間板髄核摘出術

ZOOM  
UP

## 緩和ケア内科スタート

7月に赴任しました福永智栄と申します。平成10年に三重大学を卒業後、大阪大学、兵庫医科大学、関連施設にて麻酔、ペインクリニック、緩和ケアを勉強してまいりました。特に緩和ケア領域においては兵庫医科大学病院にて平成18年度より緩和ケアチームの立ち上げに従事しました。兵庫医科大学病院は緩和ケアチームがペインクリニック部に所属するという特徴的なチームで、痛みには特に力を入れて取り組みました。難治性のがんの痛みに対する神経ブロックなどのインターベンショナルな治療を積極的に行ってきました。



このたび、姫路赤十字病院で、平成26年9月1日より緩和ケア内科が開設されることとなりました。院内の緩和ケアの充実と地域連携に力を入れていきたいと思っております。院内では医師だけでなく看護師、薬剤師、MSW、心理士の多種職チームと病院スタッフとともに患者さんの持つ様々な苦痛に取組み、安心していただける医療を提供できたらと思っています。地域連携については、かかりつけ医の先生方や、他病院とも顔の見える関係でありたいです。院内、播磨地域に緩和ケアの輪が広がることを目指したいと思っております。ご協力、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

(緩和ケア副部長 福永 智栄)

## 地域医療連携交流会を開催しました

7月19日、ホテル日航姫路において地域医療連携交流会が開催されました。昨年は106施設、251名のご出席を頂きましたが、本年は127施設、310名のご出席を頂き大盛況のうちに無事終了いたしました。ご多忙中にもかかわらず多数の御参加をいただき心より感謝申し上げます。例年通り前半は講演会、後半が懇親会で構成いたしました。

講演会は株式会社イエローハット創業者でNPO法人「日本を美しくする会」相談役、鍵山秀三郎氏にお願いいたしました。「凡事徹底」をテーマとして、誰にでも出来る簡単なことを徹底して実践する、小さな事の中にどうしたら価値を見いだせるかを考えることについてご講演をいただきました。ともすれば日頃の仕事をはじめとして、目覚ましいことや輝かしいことに目を奪われがちですが、コツコツと地道に継続することの大切さを教えていただきました。後半の懇親会は、本年より地域医療連携室長に就任した奥新浩晃室長が司会を致しました。多数の御施設の多職種の方々との歓談をさせていただき、大盛況のうちにお開きとなりました。奥新室長の報告の通り、9月より各科、各医師にFAX枠を設定し、FAX受付を平日の19時まで、土曜日は午前中まで時間延長をしています。今後皆様方が益々FAX予約や地域医療連携室を利用していただき、患者さんの診療に役立てるように努めてまいりたいと考えています。また来年も皆様方と交流会でお逢いできることを願っております。

(地域医療連携推進委員長 森下 博文)

NPO法人  
「日本を美しくする会」  
相談役 鍵山 秀三郎 様



## FAX紹介の受付時間が変わります

当院ではこの度地域の医療機関からのご期待にお応えするために紹介枠を広げ、FAX紹介の受付時間を延長するとともに予約のご返信をよりスピーディーに努めるための支援体制を強化することになりました。

**1 FAX予約受付時間** 平日17時まで → **平日19時まで**  
→ **土曜日12時まで**

**2 診察日** **原則1週間以内** \*但し、検査・診療科・診療内容及び希望が集中する場合には、お日にちを要する場合がございますのでご了承ください。

**3 変更日** **9月1日(月)～**

**お問い合わせ先** 地域医療連携課 Tel:079(299)5514(直) Fax:079(299)5519



診療科の紹介

# リハビリ テーション科

【スタッフ紹介】

田中 正道 リハビリテーション科部長  
(昭和61年卒／脊椎・脊髄疾患の手術治療とリハビリテーション)

村田 洋一 医師  
(平成16年卒／リハビリ・整形外科一般)

山岸 亮 医師  
(平成22年卒／リハビリ・整形外科一般)

大西 厚範 医師  
(平成22年卒／リハビリ・整形外科一般)

佐藤 世羅 医師  
(平成23年卒／リハビリ・整形外科一般)

三好 祐史 医師  
(平成23年卒／リハビリ・整形外科一般)



前列中央が田中リハビリテーション科部長、リハビリテーション技術課とともに

## 当科の診療方針

リハビリテーション科では、各診療科と連携をはかりながら、リハビリ診療を行っています。また、随時整形外科と協力して、脊椎疾患の手術も行っています。スタッフは、リハビリ指導責任専門医の田中正道を含む医師4名・理学療法士10名・作業療法士6名・言語聴覚士2名となっています。学会認定は、日本リハビリ医学会研修施設で、施設基準は、運動器リハビリ・脳血管リハビリ・呼吸器リハビリ・心大血管リハビリ・がんリハビリを取得しています。スタッフ、施設の両面から質の高いリハビリを提供できる環境が整っています。

急性期リハビリの役割を担う当科では、手術後および発症から症状が安定するまでの期間に、術後合併症や廃用症候群を予防しながら早期離床を目指し、質の高いより専門的な療法を実施できるように心がけています。対象は従来の整形外科疾患や脳血管疾患に加え、がん疾患、呼吸・循環器疾患、小児疾患、廃用症候群など年々増加しています。また、当院の特徴として早産児および極低出生体重児に対しても新生児センター入院中から外来に至るまで定期的に評価・フォローアップを行い、神経学的な発達の支援を実施しています。

脳血管疾患患者及び大腿骨頸部骨折手術後の患者に対しては、地域連携クリニカルパスを使用し、円滑なリハビリを進めることができるようになっています。

## 地域の医療機関の先生へ

当科の急性期リハビリが終了し、引き続きリハビリが必要な患者様には、回復期、維持期リハビリを提供できる病院・施設等との連携を図っています。大腿骨頸部骨折及び脳血管疾患の患者様については、地域連携パスを利用し、円滑な連携を行っています。

今後、さらに急性期から回復期・維持期への円滑なリハビリを進めていけるように、より多くの病院、施設と連携して行きたいと考えています。当院の役割をご理解頂きまして、ご相談・ご協力賜りますようお願いいたします。

腰痛・肩こり・しびれ・歩きにくいなど多くの高齢者が自覚しております症状を有する方は、整形外科と協力して積極的に診察させていただきますので、お問い合わせのほど何卒よろしくお願い申し上げます。

(リハビリテーション科部長 田中 正道)

## 平成25年度 診療実績

理学療法新患処方 2328件  
作業療法新患処方 1318件  
言語聴覚新患処方 679件

※整形外科と協力し、  
脊椎疾患に対する手術も  
多数施行しております。

### リハビリ件数

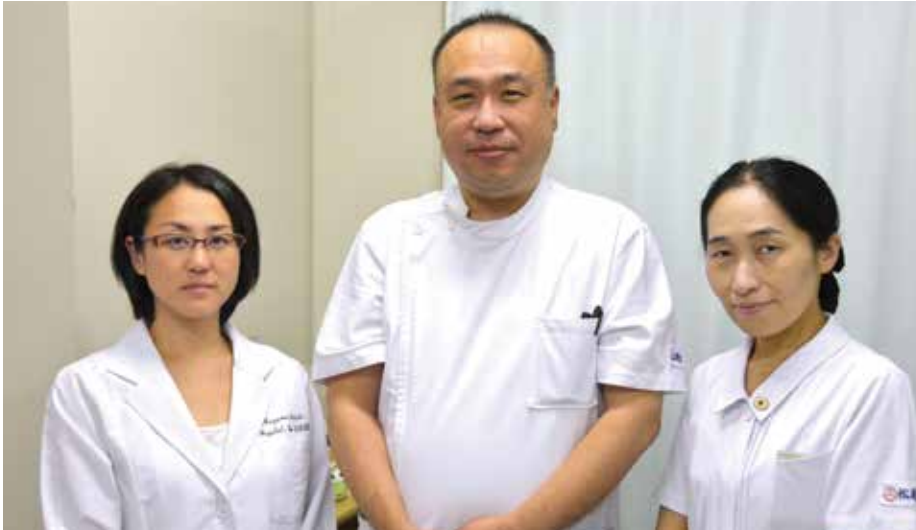
<b>理学療法</b>	<b>17,940</b>
脳血管疾患等	5,775
廃用リハビリ	1,082
運動器リハビリ	10,026
呼吸器リハビリ	1,057
<b>作業療法</b>	<b>9,169</b>
脳血管疾患等	3,233
廃用リハビリ	3,803
運動器リハビリ	1,700
がんリハビリ	433
<b>言語聴覚療法</b>	<b>3,631</b>
脳血管疾患等	1,804
廃用リハビリ	1,590
摂食・嚥下療法	237

<b>合計</b>	<b>30,740</b>
理学療法	17,940
作業療法	9,169
言語聴覚療法	3,631

# 皮膚科

## 【スタッフ紹介】

山田 琢 皮膚科部長  
 (昭和63年卒 / 細菌感染症 アトピー  
 アレルギー疾患)



中央が山田皮膚科部長、応援の杉生真帆先生(左)とともに

## 当科の診療方針

現在は皮膚科専門医 1 名により、地域の中核病院として外来・入院患者の治療を行っております。当院は多数の診療科が揃った総合病院であり、患者さんの病状を多様な視点から検討し治療を行なえる体制が整っております。より良い病診連携をめざして難治症例のご紹介を積極的にお受けしています。

## 診療内容

アトピー性皮膚炎をはじめとする湿疹・皮膚炎群や皮膚感染症、膠原病、良性・悪性腫瘍、乾癬、自己免疫性水疱性疾患、薬疹など医原性皮膚疾患など、皮膚疾患全般を幅広く診療しています。

アトピー性皮膚炎や慢性じんま疹などはガイドラインに沿った治療を行っています。乾癬の重症・難治症例ではエトレチネート、シクロスポリン等の内服療法も行います。さらに十分な効果が得られなかった方には、2010年 1 月より開始された生物学的製剤を用いた治療を行っています。患者さまの重症度と希望に合わせた治療を行う様心がけております。

## 地域の医療機関の先生へ

2013年 4 月より 1 名減員の一人体制となってしまいました。既に皮膚科専門医の先生方にはお知らせの様に、大変にご迷惑をおかけして申し訳ありません。

地域のクリニックの先生方からのご紹介を積極的に受け入れていています。

2014年 9 月からFAX予約制度を改変充実させて頂きましたのでご利用戴きましたら幸いです。今後ともご指導ご鞭撻のほど卒宜しく願い申し上げます。

(皮膚科部長 山田 琢)

## 平成25年度 診療実績

手術・検査・処置等名	
全手術数	52
(うち入院手術数)	(5)
皮膚良性腫瘍摘出術	45
皮膚悪性腫瘍摘出術	7
入院数	35
病理組織検査	107
皮膚生検	103
紫外線照射療法	62

NEWS

## 専門・認定看護師紹介

### ■ 乳がん看護認定看護師

外科病棟で勤務するうちに乳がんと闘う患者さんと出会い、闘っている患者さん・家族の何か役に立ちたいと乳がん看護認定看護師を目指しました。その名の通り乳がんに罹患した患者さんや家族の身体的・精神的なサポートをする役割を担っています。乳がんの治療は多岐にわたります。治療方針を医師と相談しながら決めていきますが、最終決定権は患者さんにあります。患者さん・家族が納得して決定し、安心して治療が受けられるように活動をしています。



現在14人に1人が乳がんになると言われている時代です。乳がんの早期発見に貢献することも乳がん看護認定看護師の役割です。日本は世界に比べるととても検診率が低いです。兵庫県は検診率が全国に比べてとても低い県で全国が22.6%で兵庫県は18.3%です。その兵庫県の中でも姫路市の検診率はとても低く13.7%です。乳がんは自己検診で発見できるものでもあります。乳がん検診率の向上のためにも努力しています。ご協力をよろしくお願い致します。

(看護師 三木 利恵)

### ■ 感染管理認定看護師

私は、2007年に感染管理認定看護師を取得し、2010年から院内予防対策担当者として院内の感染対策を行なっています。今回は、2012年から当院のICTが開催している感染対策合同カンファレンスの活動を紹介します。今年は、3病院のICTメンバーが参加し互いの耐性菌の検出状況や手指衛生遵守状況、抗菌薬の使用状況を共有、感染症対策等を検討しています。昨年、参加するA病院が感染対策として、オムツ交換の手順変更や手洗い教育を行い、擦式手指消毒剤の使用量が2.7倍増加する成果報告がありました(すばらしい)。他にも、ICTの取り組みによって患者や職員のインフルエンザ発生数が減少するなど、



感染対策合同カンファレンスの様子

他施設での感染対策事例を共有し、自施設のICT活動を見直し活気づけさせる機会になっています。また、感染対策に対する「マンパワー不足」「教育のマンネリ化」等のICTの特有の問題を共有、検討、励まし、相互の病院が院内感染対策をより充実させるよう活動しています。

今後も地域の医療機関等の感染対策充実に向け、活動してゆきたいと思えます。

### ●平成25年度の地域連携カンファレンス開催内容

今年度の取り組み			今年度の取り組み		
5/21		事例検討(開催施設事例提供) データ共有について	11/19	データ共有	事例検討(参加施設から事例提供) A施設 飛沫感染対策のマニュアル検討
8/20	データ共有	事例検討(参加施設から事例提供) B施設 接触感染対策のマニュアル検討	2/18	データ共有	事例検討(参加施設から事例提供) C施設 空気感染対策のマニュアル検討

(看護師長 八瀬 和佳恵)



## 地域医療従事者スキルアップ研修会を開催

地域医療従事者スキルアップ研修2回目を7月26日に開催しました。

今回のテーマは、感染管理認定看護師 八瀬和佳恵師長による「在宅での感染管理」で、前回は上回る46名の参加となりました。医療機関では院内感染対策の体制確保が義務づけられているものの施設在宅の義務化には至っていません。しかし在宅移行が進む今、地域で活動している在宅スタッフの感染予防への理解と実践が、在宅療養の質に大きく影響することは明らかです。

今回の研修では、クイズ方式での感染対策や、予防具の使用法の実技も織り込むなど在宅に密着した内容とし、学びを深めました。次回は10月25日「在宅の口腔ケア」です。皆様の参加をお待ちしております。

(医療社会事業副部長 田口 かよ子)



### ▶平成26年度 後期 姫路赤十字病院 研修会開催予定一覧

日程等が変更する場合がございます。ご不明な点や、お申し込みは各問い合わせ先にお電話でご連絡ください。

研修名	内容	開催場所	対象者	定員	開催日程	締め切り	問い合わせ
看護師緩和ケア研修会 (ベーシックコース)		多目的ホール	看護師	30名程度	平成26年10月 1日、28日 11月11日	受付終了	総合相談支援課
地域医療従事者スキルアップ 研修会	在宅の口腔ケア	多目的ホール	看護師・訪問看護師 訪問介護士・ ケアマネジャー	40名程度	平成26年10月25日	10月3日	総合相談支援課
ALSOプロバイダーコース	周産期救急	大会議室	医師・看護師 助産師	25名	平成26年11月15日、16日	受付終了	看護部
第26回地域連携カンファレンス	小児科・小児外科	多目的ホール	医師、看護師 コメディカル等 医療関係者	100名程度	平成26年12月開催予定		地域医療連携課
地域医療従事者スキルアップ 研修会	小児看護	多目的ホール	看護師・訪問看護師 訪問介護士・ ケアマネジャー	40名程度	平成26年11月29日 12月 6日、20日	11月7日	総合相談支援課
ICLS西播磨 姫路赤十字病院コース	ICLS西播磨姫路 赤十字病院コース	大会議室	医師・看護師 コメディカル	20名程度	平成27年1月31日 開催予定		救命率向上部会
看護師緩和ケア研修会 (アドバンスコース)		研修棟 1階 セミナールーム	看護師 (ベーシックコースを 受講された方のみ)	ベーシックコース 受講者の中から 希望される方	平成27年2月3日、17日、 24日		総合相談支援課
がんの早期発見に関する 研修会(超音波実技講習会)		多目的ホール	医師、 臨床検査技師等	30名	平成27年2月19日	1月予定	総合相談支援課
第27回地域連携カンファレンス	整形外科・ 放射線科	多目的ホール	医師、看護師 コメディカル等 医療関係者	100名程度	平成27年3月開催予定		地域医療連携課

### ▶看護師研修

テーマ	内容	実施場所	受入可能人数	講師	予定日	締め切り	問い合わせ	
レベル1対象 基礎看護技術「医療安全②」	・新人看護師が起こしやすい 事例や特徴 ・要注意薬剤について ・事故防止行動について	多目的ホール	20名	薬剤師・ (医療安全管理者) 看護係長他	10月10日	14:00~15:00	-	教育担当
レベル1対象 フィジカル入門⑤「活動休息」	・看護の視線からみるフィジカル アセスメントの基礎知識 ・活動休息	多目的ホール	20名	認定看護師 看護係長	11月 7日	14:00~15:00	-	教育担当
周産期母子医療センター 合同研修	・NIDCAP	未定	20名	助産師・看護師	11月11日	-	11月5日	教育担当
レベル1対象 看護技術シミュレーション (半日コース)	・多重課題、時間切迫状況場面 における基礎的看護技術	多目的ホール	20名	教育担当者・ 実地指導者	12月 9日 10日 11日	8:30~17:00	-	教育担当
周産期母子医療センター 合同研修	・超緊急帝王切開 シミュレーション	未定	20名	助産師・看護師	1月13日	-	1月7日	教育担当
レベル1対象 心に残った看護 場面～事例をナラティブに 書いて語ろう～	・ナラティブ事例の発表・共有	多目的ホール	20名	助産師・看護師	1月13日	13:30~16:30	-	教育担当
周産期母子医療センター 合同研修	・周産期のグリーフケア	未定	20名	助産師・看護師	3月10日	-	3月4日	教育担当

## 姫路赤十字病院の理念と基本方針

### 理念

『わたしたちは、医の倫理と人道・博愛の赤十字精神に基づき、心のかよう安全で良質な医療を実践します。』

### 基本方針

- 1.患者中心の医療…患者の人権と意思を尊重し、説明と同意により患者とともにチーム医療を推進します。
- 2.災害医療の充実…国内外の災害救護活動に積極的に取り組みます。
- 3.地域との連携…地域と連携し、高度専門医療・急性期医療・救急医療をとおして、地域中核病院の責任を果たします。
- 4.優れた医療人の育成…人間性豊かな医療人を育て、教育・研修・研究の推進により、医療水準の向上に努めます。
- 5.魅力ある職場づくり…職員の働きやすい環境づくりに努め、誇りある職場を創ります。
- 6.健全経営…健全経営を持続し、医療活動を通じて社会に貢献します。

## 患者さんの権利と責務

### 患者さんの権利を尊重します。

- 1.安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 2.十分な説明と情報提供を受けることができます。
- 3.他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求めることができます。
- 4.自分の意思で、治療方針を自由に選択・決定することができます。
- 5.自己の診療情報の開示を求めることができます。
- 6.個人情報やプライバシーの保護を受けることができます。

### 患者さんには安全で良質な医療を受けるために守っていただくことがあります。

- 1.患者さんの健康に関する情報を正確に提供してください。
- 2.診療内容を十分理解し、納得した上で医療を受けてください。
- 3.すべての患者さんが適切な治療を受けられるよう、病院の規則や指示を守ってください。

## 採用・退職

### 【採用医師】



ペインクリニック部長  
石川 慎一  
(いしかわ しんいち)  
採用日：平成26年7月1日



緩和ケア副部長  
福永 智米  
(ふくなが ともえ)  
採用日：平成26年7月1日



リハビリテーション科  
三好 祐史  
(みよし ゆうじ)  
採用日：平成26年7月1日



病理診断科  
河田 卓也  
(かわた たくや)  
採用日：平成26年8月1日

### 【退職医師】

緩和ケア部長  
仁熊 敬枝

糖尿病・内分泌科部  
小野 哲一郎  
(平成26年6月30日付退職)

眼科  
清水 壮洋  
(平成26年7月15日付退職)

### ❖ 編集後記

日本各地に悲しい災害の爪痕を残した2014年の夏がやっと去り、晴れやかな秋の頃となりました。亡くなられた方々、被災された方々には、心からの哀悼を表します。

さて、姫路赤十字病院は、地域医療支援病院の責務を果たすべく、緩和ケア内科新設、FAX予約の改善、専門・認定看護師の充実、地域医療専従者スキルアップ研修会の充実、最新医療機器の整備、等々の受け入れ態勢を、佐藤院長の号令の下、急ピッチで整えています。

もうそこまできている超高齢者社会において、限られた医療費のなかで、地域の医療を守っていくには、開業諸先生と地域医療支援病院が、お互いの長所を活かせる連携が何より大切であると思います。今回の姫路赤十字病院だよりでは、それにむけた当院の取り組みをお届けいたしました。

(放射線技術部長 松原 伸一郎)

